

【はじめに】

1978年3月26日、69名の若き青年により、浜北青年会議所は設立されました。以来43年間、450名を超える諸先輩方の英知と勇気と情熱を傾注した活動をもって、この地域の発展にご尽力されてきました。これまでの諸先輩方の活動に感謝するとともに、これからの浜北の益々の発展に向けて力を尽くすことをここにお誓い申し上げます。

私は浜北青年会議所に入会し様々な挑戦をし、出会いや経験を経て、大きく成長することができました。理事経験を重ねる中で、周りのメンバーが支えてくれたおかげで活動を継続することができ、人と人のつながりの尊さを感じることができました。そして2019年、J C青年の船「とうかい号」事業において、チームリーダーの役職に挑戦した経験は、私の考え方や行動を変える大きなきっかけとなりました。船の中で体験した、最初はまとまりのなかった25人のチームが7日間の航海を経て一致団結し、一人ひとりの笑顔が大きく輝きを放つようになる、そんな変化を目の当たりにした感動とそこまでチームを導くことができたという達成感、私の人生の原体験にもなりうる経験でした。そうした経験を経て特に大きく変わったことは、自身が携わる青年会議所の活動に自信と誇りを持ち、以前よりも楽しく活動ができるようになったことでした。この変化によって、いつか理事長をやってみたいという憧れの気持ちから、自分なら理事長を務め上げることができる、自分がやらなければという気持ちに変わりました。私は、青年会議所活動を行うことで私自身が得たこのような成長を、多くのメンバーに体感してもらいたいと強く思い、この気持ちが私に理事長職を務める決断をさせてくれました。また、誰よりも自分自身が一番楽しんで活動を行うことが一番重要だったことに気づき、楽しんで活動できるようになるためには、多くの挑戦をし、経験を積むことが必須であるということも、改めて感じています。青年会議所という組織は人を、そして地域ですらも変えることができる力を秘めている。そう確信し、それを周りに伝播させていくことが私の使命だと感じています。

青年会議所は、明るい豊かな社会の実現のために活動、運動を展開しています。明るい豊かな社会を実現するためには、誰もが挑戦できる環境が必要だと私は考えます。挑戦する心は必ず前向きで、成功しても失敗したとしてもそれはその人の大きな財産となり、新たな挑戦に向かっていく勇気に直結します。各メンバーがそれを実践できた時、浜北青年会議所はより強い組織へと成長できると信じております。私は浜北青年会議所のリーダーとして、私がこれまで得てきたものをメンバーや地域社会に還元し、皆が挑戦する機会を活かし、成長できるよう、1年間全力で活動することをここに誓います。

### 【誇り高き J A Y C E E としての成長について】

組織は一人ひとりのメンバーによって構成されています。強い組織づくりのためにはメンバー一人ひとりの個の力の底上げが必要不可欠です。まずは普段行われている青年会議所の行動規範や流儀、作法を学び、メンバー誰もが決まり事を当たり前に行うことができるようになる必要があります。

そして次に、青年会議所の意義や目的、地域社会に有益な変化を与える事業の考え方などを学ぶことで理解を深めます。これらを理解することは、日々の活動への積極的な参加を促し、この浜北をよくしたいと想う熱い情熱と使命感を持つきっかけとなります。J A Y C E E として挑戦し続け、地域や組織に良い影響を与える人材にメンバー全員が成長することで、浜北青年会議所は今よりもっと魅力にあふれ、輝き続ける組織になっていきます。

信念を持って活動をすることで個人の修練となり、修練によって培われた力をもって地域社会に貢献をし、それらの活動を通じて仲間との絆を深めることでメンバー全員が充実した活動を送れるように活動してまいります。

### 【拡大による組織の強化について】

強い組織づくりには充実したメンバー層が重要です。世の中には経営者、会社員、性別や世代の違いなど様々な立場の人がいて、それぞれの視点での意見を持っています。特に、浜北に対して愛着を持って活動を行いたいという気概を持っている方や、自身の成長を望む向上心のある方、世間に影響をもたらすインフルエンサーなど専門的な分野で突出した能力を持っている方に入会していただくことは、私たちの事業や運動に良い変化をもたらす可能性を秘めています。また、全国的に見て20代や女性の会員数は決して多くはありません。女性会員の比率8%、入会者の平均年齢33歳、平均在籍年数4年という数字を見ても、20代や女性会員の存在はこの組織にとって貴重な存在です。

浜北青年会議所として地域に大きなインパクトを与える事業を行うためには、多様な意見を取り入れ、新しい風を受け入れることが重要です。そのためには常に新たな仲間を迎え入れ、常に進化し続ける組織である必要があります。

また、拡大活動も青年会議所の事業の一つととらえると、拡大は青年会議所発足以来ずっと継続し続けていて、かつすべての青年会議所が行っている一番身近であり、経験が蓄積されている事業となります。今までのやり方に固執せず、周りからの情報を積極的に吸収しながら拡大手法も進化させていく必要があります。

目まぐるしく変化する時代に対して、自らも柔軟に変化して対応ができる強い組織であるために、拡大活動を精力的に行ってまいります。

### 【持続可能なまちづくり事業について】

2020年、コロナショックにより、今までの常識は覆され、今まであった当たり前の価値観も大きく変わろうとしています。そんな時代の中で私たちがしなければならないことは、浜北というまちの魅力を再確認し、浜北に住む人が自分のまちに希望と誇りを持つことではないでしょうか。そのために、浜北というまちの、人、物、事といった地域資源や、現状考えられる問題点や課題を把握し、それを浜北周辺地域で活動する地域団体や行政関係者などと共有し、ともに考え活動を行います。一つの例として、SDGsを活用します。SDGsとは、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成された、2030年までの国際目標です。SDGsで定められたゴールを浜北に置き換え、今、自分たちに何ができるかを、諸団体と共に学び考えることで、パートナーシップを築き上げながら地域の新たな価値を創造することができます。

浜北青年会議所単体では小さな力だったとしても、地域団体や行政など複数の団体を巻き込むことで、それぞれの団体の特色を活かした大きな力に変わり、より大きな事業展開が可能になります。各団体を小さな輝きだとすれば、それを結集し、まぶしいくらいに大きな輝きにすることで、浜北のまち全体を明るく照らすように、各団体が力を合わせることで、浜北の発展に大きな貢献ができます。そして私は、浜北青年会議所はそれができる組織だと、確信しています。

コロナによって変わってしまった時代だからこそ、今ある地域のことを見直して大切にし、力を合わせてこのまちを、誰もが誇れる浜北にしていけるよう活動をしてまいります。

### 【浜北の未来を担う青少年の育成について】

近年、グローバル化や人工知能の飛躍的な進歩、コロナショックによるオンライン化の進行など、社会情勢はとてつもない速さで変化しています。今の子供たちには、このような世の中の移り変わりに柔軟に対応し、これからの社会で生き抜くための資質や能力を育ててもらう必要があるのではないのでしょうか。

これからの時代を生き抜いていくために必要なことは、自分らしく生きることを大切にすることだと考えます。私の考える自分らしさとは、自分を認めてあげることです。そのために、自ら進んで学び、考え、自分の意見を持ち、それをもとに学友や教員などの大人とコミュニケーションを取ることで、自身の考えをより深く、豊かにしていく。これらを実行できる力を身に付け繰り返すことで、自分らしい生き方を実現することができます。

子供たちの未来には、誰にでも大きな可能性があります。その可能性に気づききっかけを与え、夢や目標を持つサポートをすることは、私たち青年会議所の使命です。

そして夢を持ち、明るい未来を目指せることが分かれば、自然と気持ちも前向きとなり、自分の将来を考えながら大きな挑戦をする勇気を持つことにもつながります。

子供たちが自分らしさと、挑戦できる勇気を持ち、自分の未来を自分でつかみ取ることができる大人に成長してもらえる事業を展開してまいります。

### 【結びに】

青年会議所は、気づきときっかけの宝庫です。これからも継続してより多くの青年に成長する機会を提供できる、さらに良い組織にしていくために、メンバーが青年会議所の本質を理解し、地域社会にインパクトを与え続ける力を持った組織にまいります。私は、自分を挑戦できる人間に成長させてくれたこの地域、先輩、現役メンバーへの恩返しとして、その土台となる仕組み作りを行い、私の跡を継ぐ愛すべき後輩たちにつなげていきたいと考えています。明るい豊かな浜北になるよう、そしてメンバーみんなが公私ともに充実できる組織にできるよう1年間全力で活動してまいります。

### 【基本理念】

- ・変化を恐れず、輝かしい未来を目指し進み続ける力を持った人材への成長

### 【基本方針】

- ・メンバーの J C に対する理解と自身のビジョンの確立
- ・様々な視点を持った人材の拡大による組織の強化
- ・誰もが誇れる魅力ある浜北の創造
- ・自分らしさと、どんなことにも挑戦できる勇気を持った青少年の育成

### 【スローガン】

変化の先に進化がある！常に挑戦し続ける J A Y C E E であれ！